

部 記 録 用

S M a c

35年度冬山合宿前穂岳

慶應尾根より北尾根

報 告

山行概要

期間 12月16—25日

参加人員

サポート隊

L. 福田敏男 文人3  
小口善久 文術3  
石井一武 工化1  
加藤龍一 農農1  
宮内宣雄 農農1

S.L. 中村和夫 文人4  
小林実 文自2  
村瀬史朗 農林1  
川崎誠 農林1  
小谷雅直 医進1

偵察隊

L. 後藤紀彦 文人2  
出島五郎 農林1  
西郡光昭 医進1

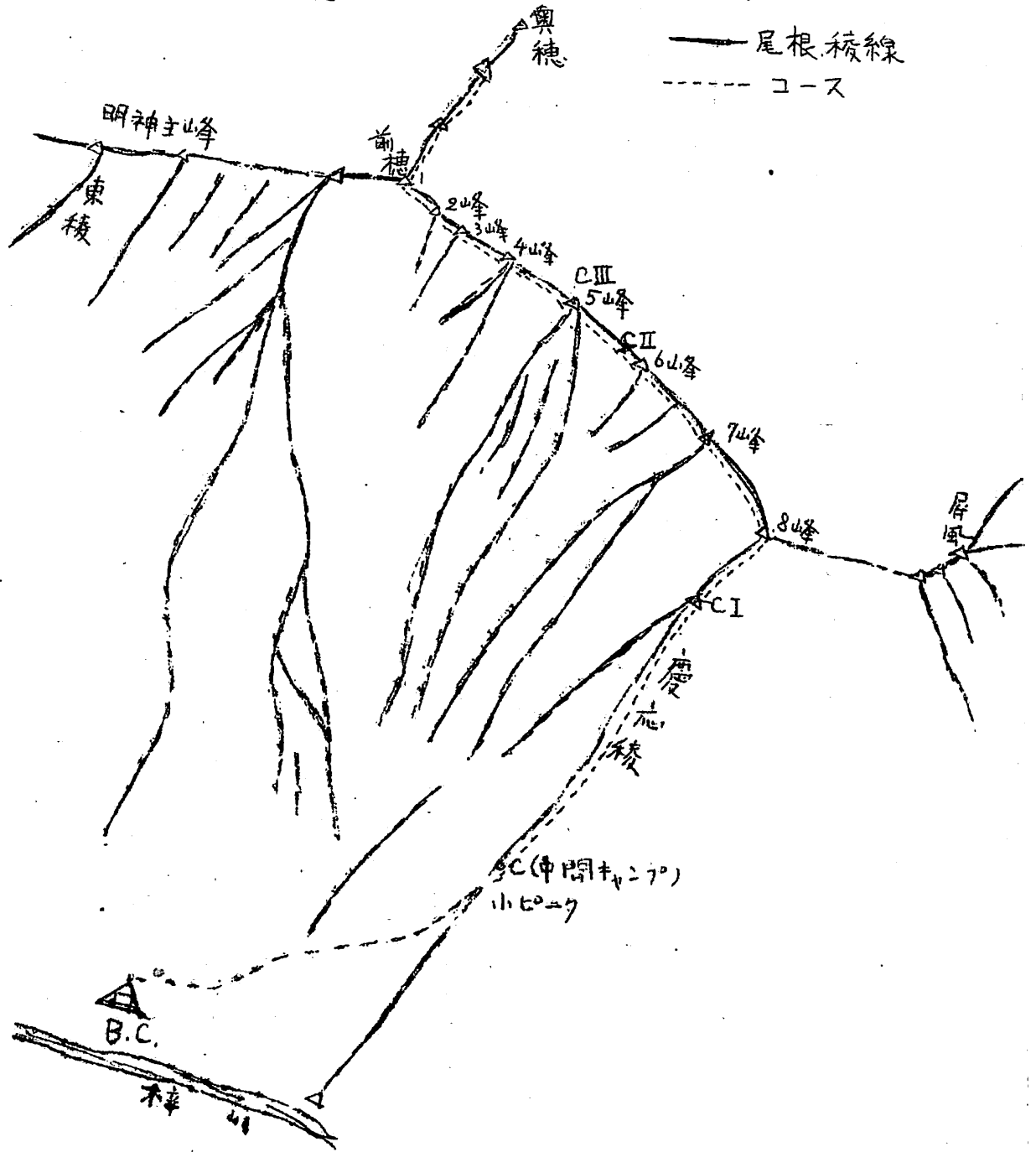
S.L. 葛西正美 農林2  
池田直弥 文自1  
伊藤国啓 文自3

アタック隊

L. 伊藤国啓 出島五郎  
後藤紀彦 葛西正美



ルート概念図



—— 尾根稜線  
- - - コース

SC(中間キヤン?)  
小ヒコヤ

B.C.

神川

# 装備報告

合宿に使用した用具

## 炊事用具

石油ストーブ 6個

鍋 2個

カマ 1個

食器 35個

コックヘル 5個

シャモジ 包丁

## 雑用具

電池 各自

輪カン 16個

アイゼン 16個

ナタ 2丁

ノロギリ 2丁

スコップ 3丁

ローソク ほうき

石油 24L

## 登攀用具

ザイル {アタック用 2本

{スリックス用 5本

ハンマー、カラビナ

ハーケン、捨なわ

## テント用具

夏天 2張

C1用ウィンパー 1張

C2用ウィンパー 1張

C3用ウィンパー 1張

ツェルトザック 1

その他個人装備 適当

## camp設営地と使用テント

B・C. 新村橋を渡った右岸より約300m上流の森林帯

夏天 10人用 1 23日に7人用夏天を増設

中間キャンプ 慶応後川ピーク付近の森林帯

17日 7人用ミッド1 19日撤収又 22日カマボコ天 23日撤収

C I 慶応後のハ山峰の付近のピーク カマボコ天 42

C II 5・6のコル 5・6人用ウィンパー1

C III 5山峰頂上 7人用ミッド1

## 行動概要

12月16日(晴)

全員：思誠寮出発(6:30)―松本駅(7:20)―島々(8:00)―  
沢渡(9:45)―坂巻温泉(12:00)―釜トンネル(13:40)―大正池(14:55)  
テント設営後エッセン係4人を残し他の12人は上高地西系屋まで  
15~18kgの荷を上げる。合計200kg程度。  
出発(15:55)―西系屋(16:45)―大正池(18:00)

12月17日(晴のち曇、雪)

全員 大正池出発(6:35)―河童橋(8:00)―徳沢(11:05)―奥又白  
本谷出合(11:45) B・C設営

偵察隊は慶応後へ。サポート隊の3人をテント設営とエッセン係  
として残し、他の7人は西系屋へ荷上げに行く。

偵察隊：B・C出発(12:35)―稜線(16:10)―小ピーク―テント設営

サポート隊：B・C出発(12:10)―西系屋(13:45)―B・C着(16:45)

12月18日(曇のち小雪)

偵察隊：二隊に分れ一隊は八峰までラッセル。他の隊はサポート隊の出迎え。

八峰隊：出発(8:20)―テント着(12:20)

出迎え隊：出発(8:25)―9:05にサポート隊と出会い、その後サポート  
隊と同じ行動

サポート隊：B・C出発(7:35)―偵察隊と出合う(9:05)―中間テント着(11:50)

全員：テント出発(12:30)―八峰の手前のピークをCI地点と決め設営  
を偵察隊にまかせ、サポート隊はB・C目指して下る(14:30)

B・C着(16:50) CI設営終了(16:40)

12月19日(快晴)

偵察隊：CI出発(8:30)―八峰(9:15)―5.6のコル(13:15)、CII設営  
CI着(15:15)

サポート隊：B・C出発(7:05)―小ピークの中間テント(9:50)―CI着(11:15)

CI着後、小ピークの中間テントを撤収に下る(3人)

CI出発(12:35)―CI着(14:40)

12月20日(快晴)

偵察隊: CI出発(7:10) - 5・6のコル(9:00) - (10:55) 五山峰頂

5山峰からでも前穂アタック可能と反迷介(CIII設営(13:00)

サボト隊: 二隊に分れ、一隊は五六のコルに泊れる用意をする、他隊  
軽装で5・6のコルからCIへ引き返す。(A) (B)

(A) CI出発(7:50) - (10:05) 五六のコル - 五山峰頂上(11:00) -  
CII着(11:50)

(B) CI出発(8:00) - (10:05) 五六のコル - CI着(12:40)

12月21日(吹雪)

偵察隊: アタックのチャンスを待つも風雪強く停滞

サボト隊: (A) C<sub>2</sub>撤収後出発(9:05) - CI着(15:30)

(B) 停滞

12月22日(快晴)

アタック隊: CIII出発(4:45) - 三四のコル(6:00) - 前穂頂上(9:30)

CIとコル交換 前穂出発、奥穂を目指す。しかし

時間不足と風が強いため、断念し吊尾根の二峰

より引き返す。(10:45) - 前穂(11:30) - CIII(14:10)

CIII撤収、出発(14:30) - 七山峰に共同装備テボ

小ピークの中箇C地点着(19:35)

サボト隊: CI撤収、出発(10:50) - 小ピークの中箇キャンプ着

(11:45) - カマボコテント設営 - 19:35 偵察隊到着

12月23日(小雪の晴)

全員: テント出発(8:15) - 八峰(9:45) - 七山峰(10:15) 前日の

テボ撤収 - (11:35) テント着、テント撤収 - B・C着(14:55)

12月24日(晴)

全員: 停滞

12月25日(みぞれ後雨)

全員: B・C出発(8:30) - 沢渡(15:15) - (16:35) 松本着

出発の頃からみぞれが降りだした。下るにしたがって雨と  
り皆すぶぬれた。た。

合宿余録

初日

待望どもないが合宿始まる。天気候晴星の光も日に  
まばゆい感じ、余程悪い事をしていたと見える。自  
然と目がふさがり遭難のモト氣をつけたよ。小林兄  
の柵南までで見送り相寄り照れ臭い顔。喜んで「出発」。  
午侍から皆バテ氣味。山賊小屋にてdown.

中日

皆毎日腫がヘル。すると知性と教養をなくし目に浮  
ぶはドンブリメシ。後は山となれ雪となれ。

アタック前日

池田西郡早く起きてエッセン作るも天気が悪いまま。  
あみ官かた眠れる。ちよつと冷えるな天幕はバリバリ。

アタック

朝四時発アルナル冷えこ武るぶるい。三回「ル」で日出  
待っ身はツラうモ。お日さんいつもいつもおれを  
待っ之は粟れた平がな。おいこまぼりはっかり。  
日、出は良いのあぼらしり。Margen Rotでどこもマ  
ツカッカ富士がホッカリ海んでい。赤尾抱風強しお  
カがで時南かかり奥様なう引返す致念だるお。こ  
いに帰ったら遠来の客。レンヤサウと二刀斎宿してい  
た。カンラカライイヤ 今日 一夜の宿を。

下山前日

晴れた日のべー スも危いもの。朝も早女からシベル  
かついで岩魚取り永も寝つ乙も石コロバカリ。岩魚の  
シオ焼き断念する。若る付スホッも好むアイヌホッ  
ケで魚を忘れ云る。他の奴等はウサギ取り、ウサギ  
は動く物がある事。を再認識する。肉汁を又逃がした。熊  
夜のろいア又格別。月影消えて持の河原入相屈。熊  
官からぬ奴共カガリ火燃い乙ワメイテイル。酒は  
夕べで切れてしまつた。甘いのガブガブ飲んでい。  
山白く海ぶ。森思く?ん?でいる 月あくまで照る。  
火は官も。の。あ。シ。ロ。の。孫。付。オ。バ。ケ。が。出。さ。う。だ。  
少し口マンケツフ。二人で河原を歩いて見たり。

終着

もう終った。はかぬいもの。早く帰つてキアヤツとサ  
ンマのフライを早く含いた。なん乙望みの小さな奴  
夕べの行悪く全身コシ、ビシ又レ。ツ行ネ付ア。

不意ヨサラバ、我等は帰らん  
出陣に際し朝メシを知らずに寝てた奴があった。何  
も食わが。もうありませし。我部始ま。乙以来「頼む」



冬 山 倉 科 談 告 告

	朝	昼	晩
相	飯・シ汁	ゴッパパン ミソパン みかん、紅茶	カレーライス
2	雑煮	ゴッパパン ミソパン リンゴ・PX	好焼 ライス お茶
3	雑煮	ビタパン ゴッパパン・PX みかん	遠赤 ライス お茶
4	雑煮	乾パン ビタパン リンゴ・PX	カレーライス お茶
5	雑煮	ビタパン ミソパン みかん・あめ	うどん 餅
6	雑煮	ビタパン 乾パン リンゴ・PX	好焼 ライス お茶
7	雑煮	乾パン ミソパン みかん・PX	五目メン 菓子
8	雑煮	乾パン みかん・PX	うどん・紅茶 ドーナツ 菓子
9	雑煮	ゴッパパン 乾パン みかん、紅茶	うどん ライス
10	雑煮 紅茶	乾パン みかん、紅茶	4フード

のと宿運た。情きん  
 今貴の不安が力きた  
 た。西岡一が力をた  
 得計た。久題し計行  
 会了た。点々現だ回  
 機於わの景色の今持  
 のに味景。満た。と持  
 省山を醒。不。とむ。へ  
 反た性分。あ。と。望の  
 処者重セン。あ。と。望の  
 比本のソシ。声く。反した  
 二立置エ。にのつ。の  
 認が位故。有。分。全。加。で  
 宿自分。極。感。中。分。協。協。さん  
 合は。示。形。了。威。中。分。協。協。さん  
 山画。三。か。形。了。威。中。分。協。協。さん  
 冬計。云。は。三。か。形。了。威。中。分。協。協。さん

## 反省

今回の合宿に於いては新人が旧人に比べ圧倒的に多く、最初の計画の如く全員四峰まで登頂、と言う目的が達成出来なかった事は残念である。新人が予想外の balance と強さを見せつけた事は春山に対する安心感ともなった。それと同時に旧部員の奮起が一層望まれる。

一部に Training 不足が表われ全員の行動力を抑えた事はうなずけたい。

天候があまりにもツイテた事も幸したと思う。例年と比べて早く入山したせいもある。しかし新人練磨にはむしろ良いのではないか。実力向上の一過程として必要である。

Tent work の点進んで動くようにならねばならない。ホカとしておるのが居った。

出発の際の遅い事である。モクモク準備に手回遅つていた。これは旧部員も同じである。1人が他の人を待たせる事が時々見られた。

出発の用意は迅速に完了する事を望む。

伊藤